

治療方針は患者と決める！

「患者と治療方針を決める」ことは当たり前のように感じますがSDM(Share Decision Making)という言葉に代表される比較的新しい概念です。

治療選択はかつてはパターンリズムと言われ、医師が一方的に治療方法を決め、患者の意見を聞くことはありませんでした。その後、患者と薬物の選択肢や情報を伝え、患者に承認を得るinformedの形に変わりましたが患者の価値観や背景をあまり汲んではい

ませんでした。SDMでは多職種が関わり、患者の価値観、人生観、環境も汲んで双方で話し合い、治療方針を決定します。結果的に患者はQOLを保ちながら、納得して治療に臨むことができます。

SDM(共同意思決定)

- 生物学的な情報(主に医学的情報)
- 最善についての標準的判断 evidence-based



医療ケアチーム



患者・家族

物語的な(narrative)情報
本人の生活と人生に関わること、
価値観・人生観・死生観・思想・選好・事情など

最善についての個別化した判断

SDMのプロセスを経て合意に至る

消化器内科ではがん治療をはじめ、さまざまな疾患の治療選択において患者とともに判断、決定するように心がけています。